

2022年度 第5回環境科学部フィールドスクール (2022/11/26)

「森林ボランティア (竹林整備)」が行われました。

2022年11月26日(土)第5回フィールドスクールでは、長崎県森林ボランティア支援センターの支援のもと、「森林ボランティア (竹林整備)」というテーマで実習を行い、14名の学生が参加した。

竹は、タケノコなどの食用の他・竹材・竹皮・竹炭など広く利用されてきた。しかし、近年、輸入タケノコやプラスチックの普及、また山村地域の高齢化により竹林は放置され拡大し、侵入竹等の影響から森林全体の公益的機能の発揮に支障が生じている。本フィールドスクールでは、支援センターのスタッフに竹林の現状及び竹林の適正な管理活用についてレクチャーを頂いた後(写真1)、手ノコあるいはナタを用いて竹林の整備を体験した。竹の除伐(不要な竹を切り倒す)や集積(枝を払い、1m程度に切り分け、集める)作業を行なった(写真2,3)。その後、枯竹を集め、薪として利用して湯を沸かし、カップラーメンを作り、昼食をとって終了した(写真4)。

天候に恵まれ、また、ケガやトラブルもなく終了することができた。参加学生の反応は一様に「楽しかった」というもので、支援センターのスタッフの方々の親しみやすいキャラクター・話し方と、適正な安全管理の賜物であった。

未経験者にとっては、竹一本であっても、切り倒して処理するには相当な体力と時間を要する。参加者にとっては、楽しい体験であったとともに、森林・竹林問題に実際に対処するには骨の折れる作業が必要であることを身体的に体験するよい機会となったのではないかとと思われる。



写真1：竹林について説明を受ける



写真2：竹を切り倒す



写真3：枝を払う



写真4：沸かしたお湯で作ったラーメンで昼食